

林業成長産業化地域創出モデル事業 ⑩

長野県伊那地域

持続可能な林業・木材産業の推進に向けて

伊那市50年の森林(もり)ビジョンの実現を目指して



1 伊那地域の現況

長野県伊那市は長野県の南部に位置し、南アルプスを境に山梨県と静岡県に接し、中央アルプスを境に木曾地域と接しています。平成18年に伊那市・高遠町・長谷村が合併し、新「伊那市」が誕生しました。

総面積は約6万6千haで、森林面積は約5万5千haと市の82%を占め、国有林約2万1千ha(39%)、民有林約3万3千ha(61%)の多くがアカマツとカラマツで占めています。里山からアルプスに至るまで広く森林に覆われ、水源涵養、土砂災害防止、地球温暖化防止などの多面的な機能を有し、地域にとってなくてはならない資産となっています。一方で、森林整備の停滞、ニホンジカの食圧被害、松くい虫被害の蔓延、集中豪雨等による山地災害の発生等多くの課題もあり、過疎化・高齢化による林業従事者の減少、放置される森林の増加などにより森林の持つ多面的機能の崩壊が危惧されています。

2 林業成長産業化構想

平成28年2月に、現在の森林状況を把握し課題を

より明確にして森林を健全で豊かに発展的に後世に引き継ぐため、「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」を策定しました。50年という時間軸で、林業関係者だけでなく市民が主体となる目標を掲げて、50年後の次世代に引き継ぐための取組を始めています。

このビジョンの理念と目標の実現を図るために、地域の森林資源の循環利用を進め林業の成長産業化を図り、地元へ利益を還元し地域の活性化に結びつける取組として林業成長産業化地域構想を設定しました。本構想に参画する事業者、関係機関等からなる地域検討会議をビジョン推進委員会内に設置し、取組の進捗状況と目標に対する達成状況を評価検証しています。

3 林業成長産業化に向けた取組

当地域では「林業成長産業化地域構想」に基づき、次の3点を重点プロジェクトに位置づけ取組を行っています。

① 新たな森林管理システムの構築

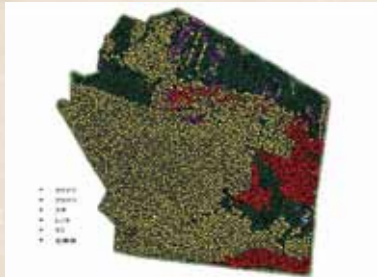
50年の森林ビジョンで作成されたゾーニングを基礎として、「営みとして活用する森林」から集約化するモデル団地を選定して、取組に向けた問題点や課題点等の洗い出しを行います。

伊那市50年の森林(もり)ビジョンと林業成長産業化地域構想

現在の森林状況を把握し課題をより明確にして森林を健全で豊かに発展的に後世に引き継ぐため、「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」を平成28年2月に策定。地域の森林資源の循環利用を進め、林業の成長産業化を図ることにより、地元へ利益を還元し地域の活性化に結びつける取組として林業成長産業化地域構想の重点目標を設定。



# 伊那市林業成長産業化地域創出モデル事業



森林資源量調査樹種分類図



新規林業専用道



境界杭 GNSS 測位



伊那市木材利活用研修会見学会



意向調査説明会

## ②森林資源の循環利用に向けた体制整備

林業の循環の確立と収益性向上には、林業経営コストの低減と木材需要の拡大が必要です。特に林業経営を支える基盤である森林路網については、路網を適切に整備し間伐や主伐後の再造林の施業を合理的に進める仕組みを整えます。また、林業経営体が高性能林業機械を導入して、次の50年に繋がる持続可能な森林経営基盤を構築します。

## ③新たな木材需要の創出

林業の持続的な経営のため、「生産から加工・流通の体制整備づくり」と「木質バイオマスエネルギー利用拡大」により林業経営体の育成に取り組みます。

「生産から加工・流通の体制整備づくり」においては、安定的な素材生産と生産性の高い作業システムの構築、林業技術者の採材技術の向上、中間土場の共有化の活用により、素材生産者から製材業者・工務店等の需要者間の直接取引を促進し、地域内業者による地域総合ネットワークの構築を目指します。

「木質バイオマスエネルギー利用拡大」では、

地域内エコシステムの構築への取組を行い、森林資源を余すところなく使い切り、より多くの利益が森林関係者に還元されるシステムを構築します。

## 4 これまでと今後の取組

### ①新たな森林管理システムの構築

取組モデル団地として、課題を抱える5団地を抽出、うち2団地で森林経営管理意向調査をモデル的に実施しました。実施後、林業事業者が森林経営計画を策定し森林整備を進めていく方針で合意できた団地と、土地所有者で構成された地元管理組合の合意が必要な団地となり、引き続き地元関係者との検討を進めていく結果となりました。

モデル団地ではUAV(ドローン)撮影による森林資源量調査と、素材生産における採算性の評価と経営管理権集積計画に資する採算性評価を実施しました。課題として、調査により得られた資源情報を、林業事業者、流通加工事業者、建築設計業者に提供する情報伝達システムの構築を検討していきます。

### ②森林資源の循環利用に向けた体制整備

モデル団地で林業専用道の開設工事に着手し、新規林業専用道を幹線とした路網配置シミュレーションを実施しました。現場地形の形状を解析し、山地保全に配慮した路網配置をシミュレートして、

今後の作業道作設のルート選択、有効な施業方法を見出すことができました。

林業事業者の高性能林業機械導入による造林、流通コスト削減の分析を行っています。

中間土場の設置については、地域の川上・川中・川下関連事業者に意向調査を実施し、同様の機能を持つ既存木材市場との共存も含めた検討も進めています。

### ③新たな木材需要の創出

既存の製材品による新たな部品開発や建築工法の研究を促すため、専門家による講演会、現地見学会を実施しました。

木質バイオマスエネルギー利用拡大の推進を図るため、市内公共施設にペレットボイラー・ペレットストーブを設置しペレットの増産を進めています。

## 5 おわりに

先に記した「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」の推進に向けた取組として林業成長産業化地域創出モデル事業を実践しています。

ビジョンの目標である「山(森林)が富と雇用を支える50年後の伊那市」を実現するために、林業が地域産業の一翼を担い森林・林業を魅力的なものにしていく取組を進めていきます。